

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 28 年 6 月 8 日発行

第 10 号

発行人 校長 鈴木史良

運動会を無事に終えて

—— 子どもたちの元気で雨雲を吹き飛ばした運動会 ——

6月4日(土)に、平成28年度の運動会を開催いたしました。今年度でなんと第29回を数えます。全日制と補習校を併せもつ現在の形の法人日本人学校として1988年に発足して以来、さまざまな歴史を一つ一つ積み重ねてきた結果として第29回を迎えることができたと考えます。職員室前廊下のケースに展示されている歴代運動会のバッジの列に、今年のバッジ(中1・MOさんデザイン)が加わりました。子どもたちも私たちも、チューリッヒ日本人学校の一員として、その歴史の1ページに加わることができたことを誇りに思います。

補習校の子どもたちが通うスイスの学校のスポーツデーは陸上記録会的なものとして理解していますが、私たちの運動会は日本の公立小中学校の伝統的な運動会を継承しています。地域の子どもの大人も運動会に集い、赤白対抗でいろいろな種目をおこない、お昼ご飯は家族と一緒に弁当を囲むという姿はまさに日本的です。日本人なら誰もの脳裏に残っている光景であり、学校と地域社会が育ててきたかけがえのない日本文化だと言えます。本校の場合、場所はスイスのウスター市ですが、運動会に集った皆様の力でこのような日本文化を味わうことができたのだと思います。

当日は在スイス日本国大使館公使・一方井様、チューリッヒ日本商工会長・辻様、チューリッヒ日本人会長・青砥様、学校運営委員長・浅野様をはじめ、多くの来賓の皆様のご臨席を賜りました。来賓の皆様には子どもたちがはつらつと動き回る様子を見て喜んでいただきました。また、運動会の運営にかかわるボランティアとして、多くの方がたにご協力いただきました。お陰様でスムーズな運営ができました。皆様と一緒に運営する運動会が無事遂行できたことをうれしく思いますとともに、皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

子どもたちの中には、1年間でもっとも心に残った思い出として、運動会をあげる子どもが少なくありません。その思い出は、やはり大空の下で思いっきり活動したときに生まれます。パン食い競走を終え、棒引きが始まろうとした矢先、心配していた雨がパラパラと落ちてきたときには、このまま続けられるかどうかと心配しました。しか



美しい運動会歴代記念バッジ



全員で伝統のラジオ体操

し、10分間程度の中断で済んだのは幸運でした。その後のいろいろな競技ばかりでなく、応援合戦、和太鼓演奏にも全力で取り組み、練習の成果を披露できた子どもたち。“全力でがんばっている俺が好き 全力で応援してる君が好き”という具体的行動目標を見事に実践できた姿をさまざまな場面で見ることができました。今年の運動会も、きっと子どもたちの心に残る運動会であったと思います。

運動会 赤組、白組キャプテンの言葉



【赤組キャプテン I・H】

今年の運動会は、途中で雨が降ってきたり、コースがぬれていたりして大変でしたが、赤組や白組、そして先生方が競技のために一生懸命用意してくれたので、白組と正々堂々、勝負することができました。先生方にはとても感謝の気持ちでいっぱいです。そして閉会式での結果発表では驚きました。なんと8点というわずかの差で赤組が勝ちました。とてもうれしかったです。けれども、僕はスピーチが苦手なので、少しおどおど話しましたが、その後みんなが笑ってくれたのが、いちばんうれしかったです。

【白組キャプテン K・E】

今回、白組は優勝することができませんでした。それがなぜだったのか、今でも考えています。今年こそ赤組に勝ちたかったと思いました。結果はわずかの差でしたので、とても残念でした。しかし、僕はなんだか違う意味では勝てたんじゃないかと思っています。それは去年から悔しい思いをしてきた白組の思いが、いろいろな場面ががんばりとなって表れていたからです。競技では負けましたが、応援では負けていなかったと思います。僕たちにとって楽しい運動会ができたなと思います。



迫力ある和太鼓演奏



玉入れ、いくつ入ったかな



きれいにしながらゴールを目指せ！



ゴールはすぐそこ、最後までファイト！